

留学報告書 II (2024 年度留学生)

塾内在籍校・学年(派遣時)	慶應義塾高等学校二年
留学先校名	Winchester College
留学期間	2024 年 9 月末から 2025 年 6 月末まで

留学を振り返って

留学に行く前に期待していたこと、心配していたことはありましたか。実際に行ってどのように変わりましたか。
留学に行く前、僕は様々な面で期待と不安の両方を抱いていました。 まず思い浮かんだのは寮生活についてです。初めての寮生活がどんな日々になるのか楽しみでしたが、ステレオタイプのイメージから、食事が合うのか、友達やルームメイトとうまくやっていけるのかという点には少し不安もありました。実際に生活してみると、寮の雰囲気はとても温かく、仲間たちも親しみやすかったのも、自然と不安は消えていきました。食事も思ったより美味しく、毎日の食卓での会話を通して楽しい時間を過ごすことができました。 学業面でも同様に、期待と不安が入り混じっていました。日本とは異なる教育スタイルの中で、授業についていけるかどうか、特に歴史の授業では前提知識の違いから不安がありました。そこで、過去の先輩のアドバイスを参考にし、積極的にたくさん質問するよう心がけ、何とか授業に食らいついていきました。先生やクラスメイトがとても親切で、分からないところは丁寧に教えてくれたので、安心して授業に臨むことができました。この一年間を通して、自分から積極的に学びに行く姿勢が自然と身についたと感じています。これまでの僕にはそのような姿勢がやや欠けていたと思っており、Winchester での授業は、僕の中に眠っていた知的好奇心を Ignite してくれました。 一方で、僕が特に楽しみにしていたのは、経済や歴史といった科目を通して、日本とは異なる視点から物事を考えることができるという点でした。実際に授業を受けてみると、ニュースや時事問題と結びつけながらディスカッションを行うスタイルが非常に刺激的で、視野を広めることができました。自分の意見を求められる場面も多く、考える力や発言力も磨かれたと感じています。 また、Winchester には多くの機会があると留学前に先輩方から聞いていましたが、その言葉通り、学校外のイベントや Society での活動など、自分を試すことのできる場面が数多くありました。中でも、後述する Japan Soc での活動を通じて、日本大使館で経済情勢についてディスカッションを行ったり、日本人代表として Jane Austen's 250th Anniversary で Tribute を送ったりと、留学前には想像もしていなかったような貴重な経験をさせていただきました。これらの機会は、すべて自分から積極的にアプローチした結果であり、一年間という限られた時間の中で、与えられたチャンスを最大限に活かすことができたと感じています。 振り返ってみると、留学前に感じていた不安の多くは実際にはすぐに解消され、期待していた以上に多くの経験を積むことができました。ある程度の不安を感じるのはごく自然なことであり、それが序盤の Motivation にもなります。そしてその不安を乗り越えた先にこそ、思いがけない成長と、かけがえのない出会いが待っているのだと、今は確信しています。

勉強の進め方や進学や将来について、アドバイザーや学校の先生と話す機会がありましたか。どのようなアドバイスをいただきましたか。

アドバイスをもらう際には、相談する内容が **Academic** か **Career** によって、相談する相手が異なっていました。

Academic な内容、つまり勉強の仕方や課題の進め方については、日常的に接する先輩や先生方が親身になって相談に乗ってくれました。特に、経済のエッセイなどは、寮にいる先輩によくアドバイスをもらっていました。自分の寮にいた先輩は経済に非常に長けており、学年でトップの成績を取っていたため、非常に的確なアドバイスをもらうことができました。例えば、経済を勉強するコツとして、「日常的にニュースを読み、それらのニュースを自分なりに **analyse** し、**logical chain** をつくる」という方法を教えてもらいました。これらのアドバイスを実践したことで、一年を通して物事を論理的に考える力がかなり鍛えられ、経済のエッセイにも生かせたと思います。また、当初はカリキュラムの違いから歴史の授業において周りの生徒に比べて知識量が欠けていると感じていましたが、先生に相談することで、補助教材として **GCSE** の教科書をいただくことができました。それを活用して自習を進めるうちに、知識が身に付き、結果的に他の生徒たちにあっという間に追いつくことができました。

一方で、将来の進路やキャリアに関する相談は、「**Futures**」と呼ばれる専門のサポートチームが対応してくれました。このチームは、生徒一人ひとりの興味や適性を踏まえた上で、大学選びや職業観について丁寧にアドバイスをしてくれます。面談の機会も定期的にあり、自分の将来を真剣に考えるきっかけになりました。特にキャリアについて相談していた際、**Financial Sector** に興味があると伝えたところ、「毎日 **Financial Times** や **Wall Street Journal** から 3 本の記事を読むと良い」とアドバイスをいただきました。具体的には、**macroeconomics** に関する記事を 1 本、**industry** に関する記事を 1 本、そして **opinion editorial** を 1 本読むというものでした。そのアドバイスを受けて以来、今日に至るまで毎日欠かさず続けており、以前より圧倒的に知識量が増えたと感じています。**Winchester College** は非常に **Supportive** な学校ですが、ただ受け身でいるだけでは十分に **Support** を受けられません。また、自分で物事を解決しようとする姿勢も大事ですが、人の意見やアドバイスを受けたほうが断然為になります。なので、しっかりと自分からアプローチし、助けを求めることが大事です。

学業について

各授業について授業の内容・進め方・課題・試験・日本との比較などについて触れながら記入してください。

数学、応用数学、経済、歴史、そして **Div (Division)** を履修していました。

数学と応用数学のクラスは 13 人の少人数制で、一人ひとりの理解度に合わせて丁寧に進められました。上級クラスに所属していたため授業のレベルも高く、難易度の高い問題に取り組む機会が多かったです。宿題や課題は週に 2 回出され、**Toytime** という宿題専用の時間に集中して取り組みました。試験は年に数回あり、また学校外の試験も多くありました。中でも、**SMC (Senior Mathematical Challenge)** で金賞を受賞することができました。**BMO (British Mathematical Olympiad)** にも挑戦しました。また、日本の授業形態とは異なり、**interactive** で生徒が気楽に発言できる環境でした。生徒の質問がきっかけで周辺知識を広げることができたり、たまには脱線することもありましたが、数学の面白さを実際に感じることもできた授業でした。

経済の授業は、一年を通して最も楽しめた時間の一つでした。日々のニュースや実際の経済情勢と結びつけながら議論を交わす授業スタイルは非常に刺激的で、現実世界を多角的に見る視野を広げることができました。また、先生方の問いかけに対して自分の意見を持って発言することが求められたため、思考の

瞬発力も自然と鍛えられました。特に印象的だったのは、インフレを肯定的に捉えた僕のエッセイがきっかけで、日本の経済状況をめぐる議論が始まり、最終的に一回分の授業が完全に日本経済に関するテーマで展開されたことです。日本の経済情勢と政策から、イギリスとは異なった視点を共有し、先生やクラスメイトと深く議論することができました。自分の **Background** が授業に影響を与え、クラスメイトの視点に **Impact** をもたらせた良い経験でした。

歴史の授業では、日本で学習した範囲と大きく異なっていたため前提知識が足りず、初めは授業についていくのに苦労しました。また、**Winchester** の歴史の授業は非常にインタラクティブで、生徒の意見や考察が頻繁に求められました。最初は他の生徒に遅れを取っていたため、自信を持って発言することができず、悔しい思いもしました。それでも、先生方の丁寧なサポートなどを通じて追いつくことができ、学年末の試験ではクラスでトップの成績を取ることができました。その結果、最終的には **A*** の評価を得ることができ、自分の努力が実を結んだと感じています。また、イギリスでの歴史の試験形式は日本のものとは大きく異なります。選択問題や短答式問題 (**SAQ**) は一切なく、基本的には約 **2 時間** の中で、**Passage Comparison** や **Theme Question** といった長文エッセイを **2 問** 解く形式です。短い時間のプレッシャー下で、知識を駆使しながら論理的かつ一貫性のある議論を展開することが求められます。この経験を通して、自分の論述力と前腕の筋肉を鍛えることができました。

Div は **A-level** の教科ではなく、**Winchester** 独自の授業です。決まったカリキュラムはなく、先生ごとに内容が大きく異なるのが特徴です。僕のクラスでは、人文・宗教・文学・科学にまたがる幅広いテーマを扱いました。授業はディスカッションベースで、自分も積極的に発言しながら毎回の授業を楽しみました。中でも特に印象深かったのが **Kenneth Clark Presentation Prize** (芸術に関するプレゼン大会)への参加です。自分の「風神雷神図屏風」に関するプレゼンテーションがクラスの代表に選ばれ、予選を突破することができました。本選ではトップ **6 入り** (決勝進出) は果たせませんでした。担当の先生から非常に好意的なフィードバックをいただき、自分のパブリックスピーキングに対する自信を大きく高める機会となりました。また、クラス内でもプレゼンテーションの機会が多かったため、自分のバックグラウンドを活かし、日本文化について様々な発表を行いました。たとえば侍と侍文化、日本経済と地方過疎化 (**Rural Depopulation**) などを取り上げ、多くの同級生が関心を示してくれました。一年を通じて、**Div** は私にとって知的好奇心を刺激し、多様な分野における知識を深めると同時に、パブリックスピーキングの力を大きく向上させてくれる貴重な時間となりました。

